

～都に鄙に、また山に～
郵便局を旅する地域活性マガジン

散歩人

SANPOJIN
5月号 vol.21

局長さんご推薦！

お取り寄せの逸品

全国産品プレゼント（新潟・長野県）

日本海と越後の山なみ、
豊饒の地
新潟

わたしと手紙

尾美としのりさん

散歩人
SANPOJIN 5月号 (vol.21)

平成25年5月1日発行 発行／有限会社 ユーライ 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル14F

定価：250円（本体：239円）





c o n t e n t s

散歩人 | vol.21 | May 2013

〈特集〉

2 日本海と越後の山なみ、豊饒の地 新潟

自然との共生をテーマにしたアートの里を散策。

開放感あふれる空間に憩い、郷土料理の滋味を味わう。

米、野菜、魚、そして酒。新潟は食・豊饒の地。

深い歴史をたたえて鎮まる佐渡も訪ねました。

10 わたしと手紙 尾美としのりさん

12 郵便局のあるまちをたずねて 新潟県南魚沼市、新潟市

局長さんご推薦！

16 お取り寄せの逸品 全国産品プレゼント (新潟県、長野県)

19 灯のリレー～復興のバトン～ としのり

20 切手で訪ねるふるさとの旅

22 川柳「二匹目のどぜう」

24 読者のみなさんから／コラム「龍の鱗」

25 バンコク雑記帳／読者プレゼント

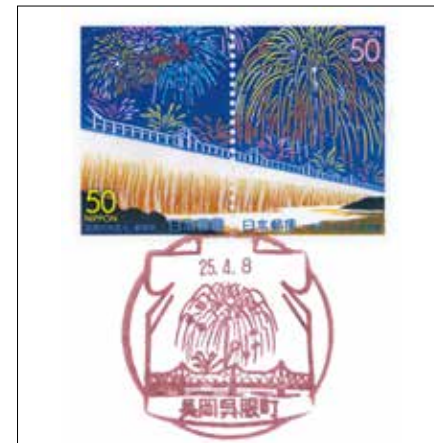
表紙:水の公園 福島潟(新潟市)

裏表紙:Befcoばかうけ展望室(新潟市)からの夕景



【寺尾台郵便局】

局から4kmのところにある関屋分水と、河口近くの国交省河川事務所、関屋分水資料館が描かれている。新潟県の花チューリップの枠の変形印。



【長岡呉服町郵便局】

局のある呉服町の町名は江戸時代、藩主らの呉服を仕立てた職人が居住していたことから。着物の絵柄に長生橋と長岡の大花火をあしらう。



【信濃町郵便局】

俳人小林一茶は信州柏原村(現信濃町)の生まれ。局近くにある一茶旧宅と一茶終焉之地の碑が描かれる。背後は信濃富士ともよばれる黒姫山。



【長野桜枝郵便局】

平成14年2月1日開局百年を記念して使用開始。変形型のりんごの枠に、善光寺本堂(国宝)と山門(重文)、北信地方の名産りんごの花を図案化。



【佐久郵便局】

平成10年4月6日配達区域統合により新局名としてのスタート時から使用開始。浅間山の枠に長野新幹線あさま、佐久平駅駅舎、佐久市の花コスモスを配する。

ひとことメモ

「風景印」が日本で初めて設置されたのは1931(昭和6)年のこと。「富士山郵便局」と「富士山北郵便局」の2局において、でした。当時の「通信省(のちの郵政省、現在の総務省)告示」で「使用肉汁(つまりインクのことですね)は鶯色とす」と定められたことから、80年の長きにわたって「鶯色」が正式色として受け継がれています。

鳶

色 通 信

vol.21

【新潟県新潟市・長岡市、長野県信濃町・長野市・佐久市】
各地の名所旧跡や特産物が描かれた「風景印」。正式には「風景入り通信日付印」といいます。「風景印」に使用される茶褐色のインクの色が正式には「鶯色」といわれることから、このコーナーのタイトルとしました。
今回は、新潟・長野の2県5局にご協力いただきました。

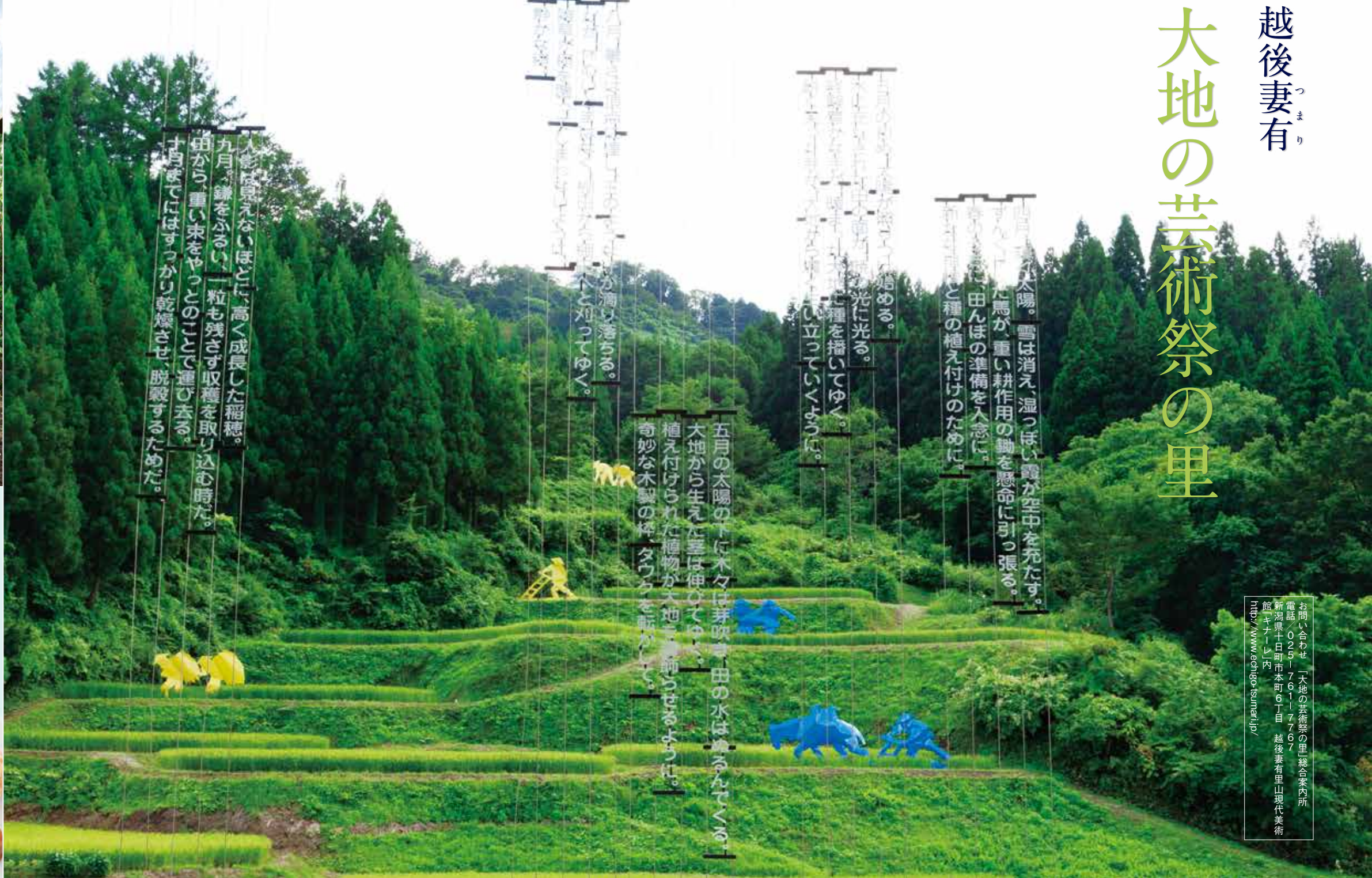
「風景印」に使用される茶褐色

越後妻有^{つまり}

大地の芸術祭の里

お問い合わせ 「大地の芸術祭の里」総合案内所
電話／0251-76117767
新潟県十日町市本町6丁目 越後妻有里山現代美術館「キナレ」内
<http://www.edngo-festival.jp/>

イリヤ&エミリア・カバコフ「棚田」2000年／撮影中村脩



トビアス・レーベルガー
「フィヒテ(唐檜)」
2003年／撮影中村脩



里山ビュッフェ(夏野菜)
大人1,500円、小学生800
円、幼児400円。土日祝限
定



草間彌生「花咲ける妻有」
2003年



越後まつだい里山食堂
まつだい雪国農耕文化村センター
「農舞台」にあるレストラン。北越急
行まつだい駅直結。大地が育む米、
季節の野菜や山菜料理が楽しめる。
電話／0251-59516180

人間は自然に内包される

新潟県十日町市と津南市に広がる越後妻有地域の、のどかな里山に斬新華麗なアートが点在する「大地の芸術祭の里」。

2000年のスタート以来3年ごと、これまで5回開催された世界最大規模の国際芸術祭「大地の芸術祭」で発表された約180点のアート

作品が約760km²もの広大な大地に常設されています。

地域の人々のおもてなしや越後妻有の風土や文化を五感で感じながらの散策は、人と人、人と自然の関わりに思いをはせずにはいられません。

アントニー・ゴームリー「もうひとつの特異点」
2009年／撮影宮本武典・瀬野広美





源泉かけ流しの露天風呂でゆったり

自然派化粧品ブランド「アヴェダ」によるオーガニックオイルでのトリートメントサロン。デイスパプラン(トリートメント+入浴+デトックスランチコース) 12,000円など



新潟の古民家の梁をつかい、ドイツ建築のテイストを融合させた「薪(まき)小屋」。天井の高い落ち着いた店内でバスタ料理などが味わえる。越後もち豚で作った自家製ハム・ソーセージ、自家製ビールは絶品

ところ／新潟県新潟市西蒲区角田浜 1661
電話／0256-77-2288
料金／洋室基本プラン(1泊+フルコースディナー+朝食) 22,000円、和室基本プラン(同) 18,000円、日帰りスパプラン 12,000円 など
交通／JR 越後曽根駅から車で15分。JR 内野駅から無料シャトルバスあり(要予約)
<http://www.docci.com/>

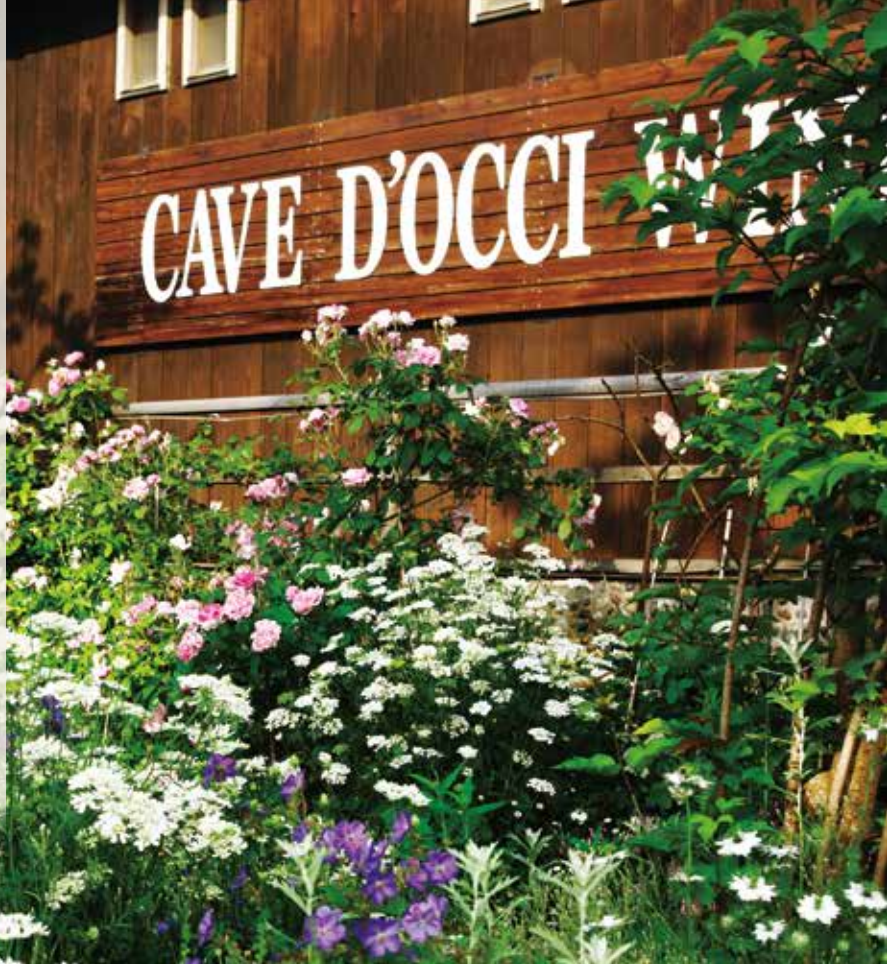
フォアグラのポアレ
ハチミツ風味のソース



オマール海老のバジリコ
バター焼き アイオリ風
味の白ワインソース



ぶどう畑に囲まれた癒しのリゾート
カーブドッチ ワイナリー
新潟市街から西へ約25km。角田山の麓、日本海に沿ったなだらかな丘陵地に広がる「カーブドッチ」約8haのぶどう畑。
手入れの行き届いたイングリッシュガーデンには瀟洒な建物が映え、レストラン、天然スパ、宿泊施設といったくつろぎの空間が点在しています。
ワインをテーマに、時がゆつくりと感じられる大人のリゾートです。



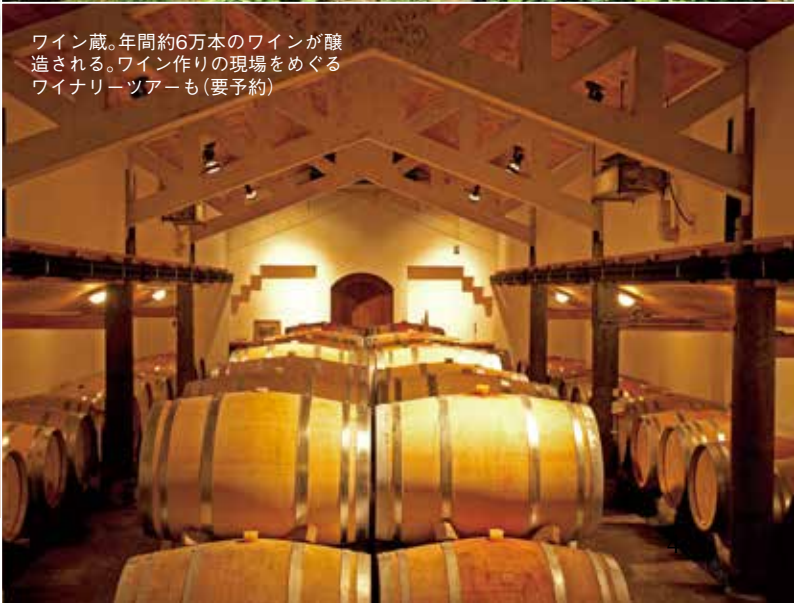
カーブドッチワイナリーの豊かな味わいのワインと本格フレンチの競演。シェフ特別フルコース8,000円など。「レストランカーブドッチ」で



広大なぶどう畑。土壌の良さ、海から吹く風が10を超える欧州系ワイン専用種を育てる



ワイン蔵。年間約6万本のワインが醸造される。ワイン作りの現場をめぐるワイナリーツアーも(要予約)



「ナチュラルで清潔感あふれる洋室
「オリープ」



季節のうつろいがお膳に満ちる

欅苑 けやき

八海山の近く、自家栽培の米と魚沼産の野菜で作る田舎風会席料理のお店。野菜の持ち味を引き上げた上品な味わいはすべて女将さんの手作り。冬季の一時期以外はすべて県内産の天然もの。時の重みを感じさせる部屋で食べる幸せをいただきます。



岩魚など川魚は囲炉裏
で焼き上げる



新潟の美味しいものが揃う

いかの墨 駅前店

佐渡沖でとれた鮮度抜群の魚介から、新潟が誇るブランド牛・村上牛まで。新潟の美味しいものが贅沢に味わえる人気店。心浮き立つ「宴」の雰囲気。新潟の地酒もさすがに豊富な品揃えです。



佐渡

海産物の宝庫といわれ、トキの里として知られる佐渡は面積855km²、東京23区約1.5倍の大きさ。新潟からジェットフォイルを使えば1時間で到着。かつて産出量世界一を誇った佐渡金山などの文化史跡、海岸線の美しさなど魅力いっぱい島です。

北前船の寄港地として栄えた

宿根木

佐渡南西部にある宿根木。江戸時代後半から明治にかけて全盛期を迎えた北前船の寄港地として、多くの財をなした船主や船大工が集まり、栄えました。細い小径に板張り壁の家々がびっしりと建ち並び、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

三角の土地に建てられた船のような家屋。外壁に船板や船釘を使い、千石船を作っていた技術がしのばれる

薄く割った板を重ね、石を置いた木羽葺き屋根が連なる一画。先に佐渡弥彦米山国定公園の海岸が広がる



トキふれあいプラザ

平成25年3月30日、トキの森公園内にオープンしました。飛翔可能な大型ケージ内に自然に近い生息環境を再現し、トキが身近に見られる施設です。現在4羽のトキが飼育されています。

ところ／新潟県佐渡市新穂長畝 383-2 トキの森公園内 電話／0259-24-6550
開館時間／8:30～17:00。12～2月までの月曜日、年末年始休
協力費／大人 400 円、小中学生 100 円(トキ資料展示館も見学可能)
交通／両津港から車で 20 分



小木宿根木郵便局。局舎をバックによく記念写真を撮られるという



大井一忠局長は「美しい自然。そして佐渡に古くから伝わるいご草を煮溶かして固めた、いごねりといった郷土料理は、くだ食べ物もおいしいので、ぜひいらしてください」とPR

佐渡おけさ

哀調をおびた節と洗練された優雅な踊りは、日本民謡の代表として、広く知られています。

お問い合わせ
佐渡観光協会
電話／0259-24-1955



「宗太夫坑コース」水上輪。長さ約3mの細長い桶にらせん状の翼をとりつけ、水をくみ上げ排水する様子。最深500mに達した坑道もあったという



「道遊坑コース」トロッコ運搬坑道

江戸時代の採掘の様子をロボット等を用いて再現した宗太夫坑コース、明治から平成元年の閉山までの採掘の跡がたどれる道遊坑コースを見学できます。資料館も併設され、独創的な生産技術に驚かされます。

ところ／新潟県佐渡市下相川 1305 電話／0259-74-2389
入館時間／8:00～17:00 (11-3月 は 8:30～16:30)、所要時間は 40～50 分。無休
入館料／宗太夫坑・道遊坑コースともに大人 800 円、共通 1,200 円
交通／両津港から車で 50 分

わくわく砂金とり体験

佐渡西三川ゴールドパーク

『今昔物語』に発見の経緯がのっている西三川砂金山。砂金山から流れ出る西三川川周辺の砂を利用した砂金とり体験です。とれた砂金は持ち帰れます。金に関する展示館併設。



砂を専用皿ですくい、水中で洗い流すと比重の重い砂金が残る

今回「散歩人」が体験してとった砂金。集めた砂金をアクセサリー等に加工できる(1,500円)



ところ／新潟県佐渡市西三川835-1 電話／0259-58-2021
営業時間／5～8月 は8:30～17:30(12～2月 は9:00～16:30まで、それ以外の月は17:00まで)、所要時間 40～50分。無休
料金／大人700円、小学生600円 交通／両津港から車で50分

出雲崎

昭和63年(1988)8月23日発行

出雲崎は日本海に面した旧北国街道の宿場町で、元禄2年(1689)年、松尾芭蕉が「奥の細道」の旅で立ち寄り、7月4日(新暦8月18日)、有名な「荒海や佐渡によこたふ天河」の句を詠んだことでも知られる。この句を取り上げた「奥の細道シリーズ」第7集は、文化勲章受章の書家・村上三島による句の書と、日本画家・青木義照による句のイメージを表現した絵画の連刷で構成されている。



●長岡市●



長岡の大花火

平成13年(2001)7月23日発行

天保11年(1840)、当時の長岡藩主・牧野忠雅は幕府から国替えを命じられたが、翌12年に取りやめとなった。これを祝って打ち上げられたのが、現在の長岡の大花火のルーツとされている。8月初旬の花火大会に先立ち発行された「ふるさと切手(新潟県)」は、直径約650メートルの正三尺玉と、長生橋に仕掛けられたナイアガラ大スターマインを切り絵作家・刈谷靖子の原画で再現。



清津峡

昭和40年(1965)3月15日発行

黒部峡谷、大杉谷とともに日本三大渓谷のひとつに数えられる清津峡は、十日町市小出から湯沢町八木沢にかけての全長約12.5kmに渡って、清津川(信濃川の支流)が形成した峡谷。昭和24年(1949)に上信越高原国立公園の一部として指定されたことで観光地として有名になり、温泉街も整備された。「上信越高原国立公園」の切手には、渓谷と柱状節理の迫力ある地形が取り上げられている。

●燕市●



五合庵と日本海

平成4年(1992)5月1日発行

弥彦山脈の南端、国上山中の五合庵は、諸国遍歴を終え、越後に戻った良寛が、文化元年(1804)から13年過ごした庵。その名は、戦国時代に国上寺本堂を再建した萬元が毎日米5合を給されていたことに由来し、良寛の前は国上寺の前住職・義苗が住んでいた。グラフィックデザイナーの入沢和文の原画による「ふるさと切手(新潟県)」は背景の日本海との組み合わせがポップな雰囲気のもの1枚。



新潟県政記念館

平成元年(1989)7月14日発行

新潟県政記念館は、昭和7年(1932)に県庁舎内に議場が移されるまで新潟県会議事堂として使用された建物で、明治16年(1883)完成。昭和44年(1969)に重要文化財に指定され、修復工事を経て、同50年(1975)から一般公開されている。平成元年に開催の「新潟食と緑の博覧会」を記念して発行された「ふるさと切手(新潟県)」は緑色の建物として描かれているが、実際は白亜の洋館。

●新潟市●

小さな芸術品ともいわれる郵便切手。
全国各地の風物が色鮮やかな図柄に活かされています。
このコーナーでは、ふるさとの風景を描いた切手を切り口に、全国を旅するようにめぐっていきます。
第15回は「新潟県」。
執筆は、郵便学者の内藤陽介さんをお願いします。

切手で訪ねる
ふるさとの旅

●十日町市●



十日町雪まつり

平成11年(1999)2月12日発行

昭和25年(1950)に始まった十日町雪まつりは、「雪」と「きもの」と「花火」を素材として構成する「雪上カーニバル」が名物。同56年(1981)に開催された第32回雪まつりの雪像ステージは「雪で造った世界一の建造物」としてギネスブックに掲載され、平成11年2月の第50回雪祭りを記念して発行された「ふるさと切手(新潟県)」にも雪まつりの象徴として取り上げられた。

●湯沢町●



関越トンネル

昭和60年(1985)10月2日発行

谷川岳を貫通して、新潟県南魚沼郡湯沢町一群馬県利根郡みなかみ町間の10,926mを結ぶ関越トンネルは、昭和52年(1977)に着工し、同60年(1985)10月2日、現在の下り線トンネルが開通し、片側1車線(暫定2車線)の対面通行で暫定供用が開始された。これを記念して発行された切手は、トンネルが横断する谷川岳断面図の下に、新潟側(右)と群馬側(左)のトンネル口を並べて描く。

●第15回●

新潟県



郵便学者
内藤 陽介さん
yosuke・naito

1967年東京都生まれ。東京大学文学部卒業。郵便学者。日本文芸家協会会員。切手や郵便物から歴史や文化、国際関係などを読み解く研究・著作活動が続いている。主な著書に『年賀状の戦後史』(角川oneテーマ21新書)、『マリ近現代史』(彩流社)など。